

思考力・判断力・表現力を育てる指導法の研究

～算数科の問題解決型の学習における言語活動の充実を通して～

I 研究の内容

1 研究の目標

- 言語活動の充実に努め、児童の思考力・判断力・表現力を高める
- 児童が意欲的に授業に参加し、学び合いが深まるような学級集団づくりを進める
- 各家庭と連携して、学習習慣および基礎的・基本的な知識や技能の定着を図る

2 研究の具体的内容

(1) 問題解決型の授業研究・「甲州市 Teacher's Note」を活用した授業づくり

ア 授業の構造化

板書用「めあて」「まとめ」プレートの制作・配布・活用

イ 模擬授業「第4学年 複合図形の面積を求めよう」実施

講演会「数学的な思考力・表現力を育てる授業－言語活動の充実を通して－」

授業者・講師 山梨大学教職大学院 中村享史教授

ウ 算数科の問題解決型の学習における授業研究の実施

第3学年 算数科授業研究「わり算を考えよう」 授業者 雨宮 由香教諭

指導・助言 義務教育課 齋藤 功主幹・指導主事

第5学年 算数科授業研究「図形の角を調べよう」 授業者 佐藤 薫教諭

指導・助言 峡東教育事務所 柴田 幸也指導主事

エ 一人一実践（授業研究者以外全員）

オ Q-U分析結果を載せた指導案づくり・座席表づくり

(2) 言語活動の充実・言語環境の整備

ア 中村享史先生・柴田幸也先生を招聘しての学習会

（授業コーディネート・算数用語の紹介や算数掲示コーナーの設定について）

イ 「言語活動ハンドブック」・「子どもたちに豊かな言語環境を」リーフレットの

読み合わせ

(3) 学級集団づくり

ア 塩山中教諭 藤原裕喜先生を招いての学習会

（構成的グループエンカウンターのショートエクササイズやSSTの実際）

イ Q-Uアンケート ヘルプサイン・ポジティブチェック法、クロス集計表の見方

についての環流及びK13法による分析・「今後の対応策」の検討

ウ 各学年の「今後の対応策」の共有化、不満足群の児童の再確認（運動会前）

(4) 家庭学習ノート（「いじりの子ノート」）の支援・各種学力調査結果の分析

- ア 井尻小「家庭学習の手引き」の見直し・保護者への周知及び「いじりの子ノート展覧会」の実施
- イ 各学年の取組と系統的な支援の共通理解
- ウ 「いじりの子ノートがんばり賞」を渡す基準づくり
- エ NRT 検査，平成 27 年度「全国学力・学習状況調査」，3・5 年「県学力把握調査」結果の分析と今後の対策の検討

II 成果と課題（項目は上記「I 2 研究の具体的内容」に合致）

1 成果

- (1) 「めあて」「まとめ」のマグネットシートを全教室に配り，全職員で授業の構造化を意識しながら授業を行うことができた。「甲州市 Teacher's Note」に沿った授業づくりを意識し，授業研究や一人一実践に向けて取り組むことができた。
- (2) 講師を招いての学習会で，教師の授業コーディネートの仕方や，算数科における言語活動の実践例，算数掲示コーナー等について学習することができた。
- (3) 講師を招いての学習会で，実際にエンカウンターや SST を体験できたことが普段の実践につながった。また，充実した Q-U 分析ができ，児童理解に大いに役立った。アタックシート集を見ながら対応策を話し合えたことも良かった。
- (4) 各学年の取組の様子や「いじりの子ノートがんばり賞」を渡す基準についても話し合え，職員の統一見解がもてた。児童の発達段階に応じて取り組み方は異なるが，全職員が同一步調で児童に働きかけることが大切である。

2 課題

- (1) 今後は，子どもが「めあて」を設定し，子どもの言葉で学習の「まとめ」を行うような授業が実践できるよう，子ども主体の学びの過程をつくり上げていくことが必要である。今後も「甲州市 Teacher's Note」活用し，取り組んでいきたい。
- (2) 研究会で学んだことを写真や文章などでまとめたり，算数掲示コーナー等の実践を写真で残したりし，来年度以降の財産としていきたい。言語環境の整備や見直しなどは，継続的・計画的に見直しを持って行っていくことが大切である。
- (3) 今後は，アタックシートの対応策について PDCA サイクルで定期的に見直し，更なる対応策を検討していくと学級集団がますます高まっていくであろう。
- (4) 来年度も，年度初めに職員の意識の統一を図っていきたい。また，家庭での働きかけをどのように行っていくと更に家庭学習が充実するののかについても深めていきたい。

III 成果物

- 1 授業研究授業案・一人一実践授業案及び実践のまとめ
- 2 Q-Uアタックシート（全学年）
- 3 井尻小「家庭学習の手引き」（低・中・高）
- 4 平成 27 年度「全国学力・学習状況調査」，山梨県 3・5 年「学力把握調査」出題問題 学習学年一覧表
（研究主任 志村多恵）